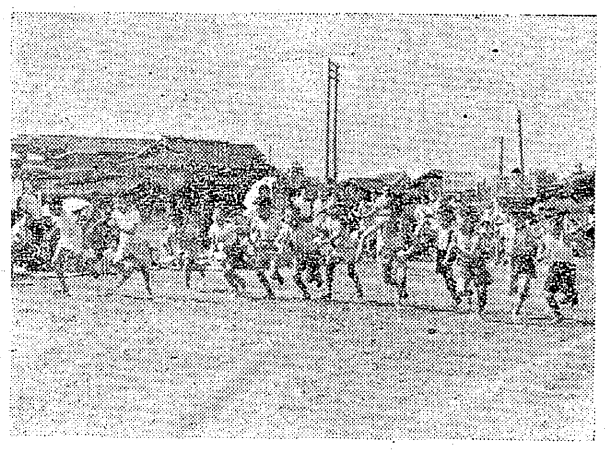
勉強に大切な二学期
無理なく習慣をつけさせよ

夏休みも終つていよいよ二学期がはじまりました。二学期は一年中でも一番よい気候といわれています。勉強に、体育に大いにその才能や体位を向上させるにはまたとない機会です。だが、またこの期間は運動会の季節でもあり、また長い夏休みのしこりもまだ十分とれていないなど、とかく勉強がお留守になるのも決して見逃せない大切なことです。このため、二学期にはどうして勉強の指導を行うか……を研究してみました。

雰囲気を變えて

二学期になると、先生によつては生徒一人々々の性質や生徒同志の関係、クラス全体の傾向などを考えながら、能力や性格がよりよく伸びるように、教室での座席をかえたりして、清新な空気をつくろうとします。家庭でも丁度この時期に、何か新しい趣向で、少しでもやりましょう。



よく学べ　よく遊べ

各地域では秋季運動会がはじまつた

会議と子供

「お母さん、会議行くのでしょう～一生懸命おりこうさんするから、連れて行つてね」と小さな手で母のスカートの端をちよつぴりにぎり、あつち、こつち出かける準備をする後を、汽車ごつこの様に、ついてあるいて居た。末の子でした。又、「あのね、組合のおじちやんがね、道子ちやんはお母さんの隣ぎんちやくね。何処でもついてくるからつてよ」。などと人の口真似をして、笑わせていたのは去年の事でした。

これが近ごろでは「会議はもうついて行かない。お留守ばんするの、その代り、松屋のヒコーキに乗りに行く時と水前寺の動物園には連れて行つてね。」指切り!!そして、アクシュ!!といつて元気に幼い右手出して、につこりする様になりました。バスの時間をみながら、その〃アクシュ〃を忘れてとび出そうものなら、さも残念そうに後では悲しそうに泣いているそうです

このごろ朝夕めつきり涼しくなり、いよいよ秋になつた夏休みもすみ、上の兄さんは、学校、下の兄さんは幼稚園に通い出した。さあ、道子はどうしよう!道子ちやん、お母さんは会議に行くのお仕度しなさい。といえば、さもびつくりした様に丸い眼をくるくる廻し、「道子ちやんを連れて行くの?そんなら水前寺なんかつた。胸に熱いものがこみあげてくる。幼い子供は何を求め、何を眺えているのか、夏休みの思い出、母のあたたかい愛情、やさしい腕に抱かれて、甘える日を夢みている——

せめてこの子供達の代には幸な世の中を——とがんばつている私達、母親です。併し現在のわが子の心境は——静かに振りかえつて見ると、ミルク瓶をふところに抱いて坐込みに出ていつたが、あれから四年—子供達はすくすくと強く正しく成長した。私達主婦会も成長した。

併しこれでいいのだろうか母は強し—お前の名も母ではないか。がんばれ!負けるな先程、アクシュして来たあの子の手の暖みの残つているわが手を身ににぎりしめた時築町に停車していたバスは静かにすべり出した。これでいいのだ。

今でも近所の会員の暖い協力により、幼い子供達の声援に送られて、会議に向う私だつた。(三川　藤枝　文子)

知っていますか
偏食の直し方

子供は卵料理がだいすきです。お母さんたちは卵料理をされるときはいろいろ考えて、献立をかえてたべさせて下さい。肉や魚料理も同様です。豆腐などの豆製品も発育には見のがせない食品の一つです。

骨格や歯を大きくするには、何といつてもカルシウム、牛乳、小魚類ですが、ダシにとつたニボシも捨てないでツクダニにいり上げるとか、フリカケにしてやれば経済的です。そのほかバターやレバー(肝臓)をつかつた料理をしたり、ホオレン草やニンジンなど色野菜をもりもりたべさせると抵抗力ができます。

たゞ困るのは偏食が多いことでニンジン、ネギなどはその代表でしよう。そのまゝにして偏食をつづけていると大人になつてから結核にかゝるから大変。そこで、子どもの好きな料理のなかに、そつと細かく刻んでいれるなど、そこはお母さんの愛情と料理の腕がモノをいゝます。

子供にいけない食品は、あまり甘いもの、からいもの特に砂糖分が多いと骨格の成長を妨げるというからこわいものです。香辛料もひかえ目に。カレーなどは量を少くかけてやつて下さい。

ともあれ家庭経済のゆるす範囲で、子供を栄養に楽しい食卓にするためのいろいろな工夫をたえずつづけましよう。また秋は食欲が大変すゝみます。といつて与えすぎると夜涼しいので弱つた胃腸はすぐ下痢を起すので過度の間食はさけおやつにもなるべく甘いものはさけて下さい。

一定の場所を

このため子供の勉強する場所をどこか光線の工合のよい、あまり邪魔にならないところに机をおいてきまつた場所をつくつてやりたいものです。場所のきまつているところは、まわりのものと配置がえなどをして新しい感じがえられるようにしたいものです。

定つた時間と習慣を

こういう新しい感じが生きている間に、毎日きまつた時間、子供を机に向かわせる習慣をつくることが大切です。いまゝでの習慣、家庭の事情などでは時間は異なりますが、できるだけ無理の少い時間を考えましよう。

暖かい理解で

この場合、命令的に、たゞ勉強しなさいというのではなく、その日子供が学校で教わつたことを聞くとか、教科書の中の習つたことを、何かにかこつけた話をするなどして、またあのいやな勉強か、というように子供の先入観がすぐ出てこないようにしましよう。たゞ子供が言うことを聞くまで、いくらでも力を加えてゆく、という方法は大変な間違いであることをよく理解しなければなりません

一日二日では駄目

このようなことを何日かつづけていくうちに、いつの間にか、勉強するという習慣がつくものです。私たち自身のことを考えてみれば判る通り、習慣というものは、はじめは努力して、がまんしてやつていても、何度もくり返してやつているうちに、ひとりでにそうするようになつてしまつたものです

先生とも相談して

だが子供のことなどみてやるひまのないお母さんもありますし、おちおち勉強をするどころではない家もありましよう。こういうときは学校へ行つて先生とよく話合つて行くのが最もよい方法だと思います。先生はおそらく、そういう子供のために、授業前後に教室をつかうことを考えたり、地区どとの学習クラブをつくつて、みんなで助け合つて勉強することを考えてくれると思います。

子供の氣持をくんで

昔からですが、家で勉強させようとするときに、勉強しないと学校の成績が下がるとか、誰さんに負けるとかいうことで、子供のシリをひつぱたいているところもよくありますが、これは少しあさましく、悲しいことです。

活字制限

青年部の村山君はなかなかの好漢で、仕事も組合運動も熱心ですが、理くつぽくてやたらに難しい言葉を使うのが玉にキズです。この秋、結婚することになつている美代子さんと日曜のたびにランデブーですが、別れぎわのキスをするのにも必ず「我々の愛情を再確認するために」というような始末です。これには美代子さんも閉口してしまいましたが、その村山君が、組合の夏季講座に参加し帰つて来てからガラリと変り、しやべつたり書いたりするのにやさしい表現をします。今日もランデブーの別れぎわ、黙つてキスしようとするので美代子さんが「確認はどうしたの?」とひやかしますと、村山君大まじめで「いや漢字は使わないほうがカンジがでる」

秋ナス

親と同居している嫁の座というのは、いまだにとかく面倒なものですが、田中さん一家はその点しごく明朗で、お母さんが留守をまもり、夫婦がともかせぎをしています。何でも遠慮なく言い合う家風で、今晩も食卓にのつた秋ナスが議論の中心となりました。

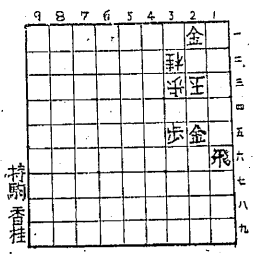
「秋ナスは嫁にくわすな」というのは「冷えやすいから食べないほうがいゝという思いやりなんだ」というのが田中さんの意見。「おいしいものを嫁に食べさせない封建時代のやり方ヨ」というのが奥さんの意見。それぞれ論証をあげてゆずりません。すると黙つて聞いていたお母さんが「二人とも、秋ナスなんかドツチでもいゝでしよ。それより今から十二月のボーナス闘争やらなきやだめですよ」

詰将棋

今週の出題

ヒント　香打の場所を作る事

(出題者　四山　小野　強)



賞金五百円

【第二回】

ヤマ・グラム

【ヒント】こんどは内容そのものがわれわれ組合員の身近なものであるので、よく読んでもらえば解答はすぐ出ると思います。

○印に当用漢字を入れること。解答は順番に漢字を書くだけで結構です。　(締切　三十日)

【問　題】

私たちが生◇つゞり◇運◇に力を入れなければならないと◇じこの◇動をとりあげたのはつぎのような◇え◇からですそれは組合がなにかの◇◇で一つの◇動を◇す場◇◇◇と◇結をくずさずいたずらな◇事をしないで◇◇にむかつてまつすぐに進むためには◇合◇やその◇◇の◇人◇◇がどうしたらよいかということをいろいろな◇◇から意見を出し合い話し合つた中で◇しい結◇を◇みだして行動に移るということが一◇◇◇であるから私たちはいままでも十分といえないまでも◇場や居住において◇◇◇議を実践してきた。

▲賞金　五百円、正解者多数の場合は抽せんにより五名に分配します。

▲応募規定　用紙はハガキの大きさ。解答用紙には「みいけ」欄外の三鉱労組のマークを切抜いて貼つて下さい。

なお氏名はもちろん、支部名、職名も必ず記入のこと。

▲正解者なき場合は、賞金は次回に加算いたします。

今週の映画

○セントラル＝廿六日より「スカートをはいた中尉さん」「東方の雷鳴」

○太陽館＝廿六日より「カラコルム」「兄とその妹」

○大天地＝廿六日より「君は花の如く」「泣き笑い五十両」

○東映＝廿六日より「大学の石松」「どくろ銭」

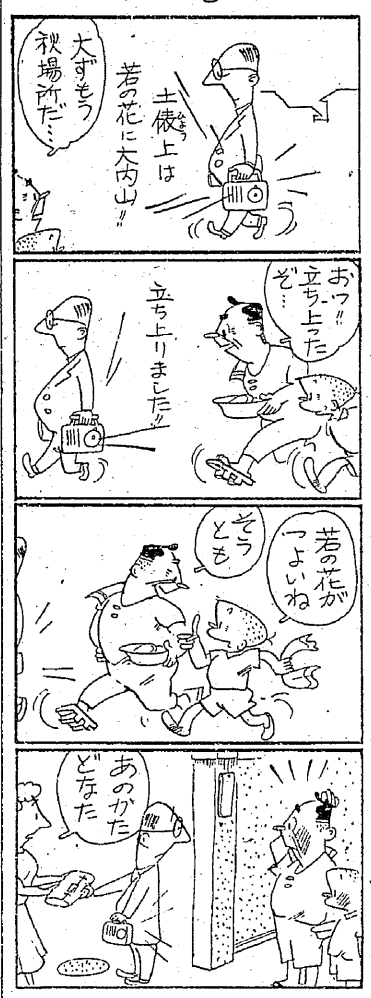
○銀星＝廿六日より「交なし横丁の人々」「愛慾と戦場」

○名画座＝廿六日より「あやに愛しき」「地下から来た男」「東京暗黒街」

○新世界＝廿六日より「兄とその妹」「日本かく戦えり」

○三鉱＝「白い魔魚」廿六日三作建設、廿七日三川、港務、廿八日緑ガ丘、廿九日宮浦、卅日宮原、万田、一日四山、二日渡作

ミヨちゃん　中村かめお



＝映画・紹介＝
空と海の間に

大陸を遠く離れた洋上の一漁船にえたいの知れぬ病気が発生して乗組員は死の危険にさらされた。彼等はどうしたら救われるだろうか——この映画はこうした設定のもとに、一台のアマチュア無線機が橋渡しとなつて、多くの国の人人が、国境を、人種を、思想を超越し、戦争の怨みも忘れ、個人の利害も度外視して協力する姿を描き、人命の尊さと国際間の友情の美しさをうたい上げ感激的な作品である。二つの世界の対立がまだ消えやらず、原子兵器や水爆の恐怖におのゝく現代にあつて、この映画の果す意義はまことに大きなものがあるといえよう。

※　※

出演者は、特定の主役というのゝないこの映画の内容にふさわしく、スター・バリユウーにとらわれずに、役柄にふさわしい俳優を各国から抜てきしている。

※　※

【ストオリイ】　ノールウエイの沿岸から最短二日の北氷洋上に出漁していたフランス、ブルターニユ半島の漁港コンカルノオのトロール船「リユテス」号に奇妙な病気が発生し、乗組員十二名がバタバタ倒れていき、いまでは船長と二等通転士のジヨズと、アラビヤ人のモハメツドが残つたが、ジヨスは船に悪魔がとりついたのだと唯一人の異邦人モハメツドのせいにした。

頼みの無線機は故障していたが船長はアマチユアの技士で船内に機械を据えていた。これが船の人人を救う唯一のチャンスとなつた何千キロも離れたアフリカのトゴの土人部落で白人アルベルトがこれを受信したのだつた。軍医と連絡をとり船との連絡で病気はハムの中毒とわかつた。いまは夜の七時四十分だ、翌朝の八時までに注射しなければ全員は助からない。

しかもハム中毒の血清はパリのスツール研究所にだけしかなかつた。

パリでこれを受けたのが十八になるアマチユアだつた。彼は軍医の指示により苦心の末血清を手に入れるだが冷酷な規則のため飛行場にかけつけたときはもう北方へ飛ぶ飛行機はなかつた。がミユンヘン行きの飛行機が一つ残つていた。

少年はわが家に帰りミユンヘンを呼び出したミユンヘンでは戦争で盲目になつた男が受信した。

しかしその時はもう飛行機は飛び去つていた。

このため血清はポーランド機のスチユワデスに託され、コペンハーゲン・オスロ現場へと送られたこの頃やつと各国の無線局が動きだしリユテス号救助へと捜査に全力をつくされだした。

人々の連帯責任は無益ではなかつた。一週間後、コンカルノオは全港をあげて、リユテス号の帰りを歓迎していた。ラジオがその状況を世界に放送している。アフリカ、ミユンヘン、ベルリンでも…

(三日より銀星)